

ウグレヴィック火力発電所排煙脱硫装置建設計画【ボスニア・ヘルツェゴビナ】

施策所管局課 国別開発協力第三課
評価年月日 令和2年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	ボスニア・ヘルツェゴビナ
(2) 案件名	ウグレヴィック火力発電所排煙脱硫装置建設計画
(3) 目的・事業内容 *閣議決定日, 供与条件などを含む	<p>ボスニア・ヘルツェゴビナにおけるウグレヴィック火力発電所に排煙脱硫装置を建設することにより大気汚染物質 (SO₂及びダスト) の削減を図り, もって同国の環境改善及び将来の EU 加盟に向けた EU 環境基準の達成に寄与するもの。</p> <p>案件の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排煙脱硫装置建設 ・関連設備 (石灰石供給設備, 石膏脱水設備等) 整備 ・コンサルティングサービス <p>ア 閣議決定日:平成 21 年 10 月 16 日 イ 供与限度額:126.33 億円 ウ 金利:0.55% エ 償還 (据置) 期間:30 (10) 年 オ 調達条件:一般アンタイト</p>
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	<p>ア 社会ニーズの現状</p> <p>ボスニア・ヘルツェゴビナ (以下, 「同国」) は, ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦並びにスルプスカ共和国という二つの主体 (エンティティ) を中央政府が調整する国家形態をとっている。同国は 4 箇所の大型火力発電所を有し, 電源構成比は全土の約半数を占めている。火力発電所は石炭を燃料にしているが, 各発電所からの大気汚染物質の排出状況は同国環境基準値を上回っており, 環境への悪影響が懸念されている。</p> <p>本事業計画当初 (2007 年), ウグレヴィック火力発電所はスルプスカ共和国内発電設備容量の約 23% (同国全体の発電設備容量の約 8%) を占め, 電力安定供給に不可欠な発電所である一方, SO₂排出量は 4 火力発電所の中では最も多く, 当時の SO₂排出量は最大 25,000mg/m³N であり, 国内排出基準値 (EU 基準値) である 400mg/m³N を大幅超過していた。</p> <p>現在も同国は EU の潜在的加盟候補国として EU 統合促進を掲げており, EU 基準に適合した環境対策の実施が引き続き見込まれ, 同発電所においても, 国内排出基準値 (EU 基準値) である 400mg/m³N を目指す必要があることから, 現在も本事業に関する社会的ニーズがある。</p> <p>イ 事業遅延に関する経緯・現状</p> <p>事業計画時は 2012 年 3 月に本体入札終了を予定していたが, 先方政府による借款契約 (L/A) 発効手続き, コンサルタント選定手続き, 本体入札図書作成及び評価プロセス等の遅れにより事業が遅延した。本体工事は 2016 年 7 月に契約締結, その後概ね予定通りに工事が進んでいる。2020 年 3 月現在試運転を開始しており, 2020 年内完工予定。</p>
(2) 今後の対応方針	<p>本件に関する社会的ニーズが引き続きあり, 事業完成後は当初予定どおりの効果が見込まれており, 事業の進捗を妨げていた要因は解決していることから, 引き続き支援を継続する。</p>

3 政策評価を行う過程において使用した資料等	<ul style="list-style-type: none">・国際協力機構の案件検索 (https://www2.jica.go.jp/ja/yen_loan/index.php)・国際協力機構の事業事前評価表 (https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/before.html)・そのほか国際協力機構から提出された資料・外務省 HP・ボスニア・ヘルツェゴビナ (Bosnia and Herzegovina) 基礎データ (https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bosnia_h/data.html#section1)
------------------------	---